

事業名称	舞鶴市世界記憶遺産を活用した地域づくり未来づくり事業		
実行委員会	舞鶴市世界記憶遺産保存活用推進委員会		
中核館	舞鶴引揚記念館		
	住所	〒625-0133 京都府舞鶴市字平 1584 番地 引揚記念公園内	
	TEL	0773-68-0836	FAX 0773-68-0370
	ホームページ	http://m-hikiage-museum.jp	
構成団体	舞鶴市、舞鶴市世界記憶遺産保存活用推進委員会、NPO 法人舞鶴・引揚語りの会、(一社)舞鶴観光協会、京都府立東舞鶴高等学校、舞鶴市立若浦中学校		
事業開始時点の課題分析	<p>舞鶴市は戦後、引揚港に指定され、13年間で66万人を受け入れ、その使命を果たした引き揚げを象徴するまちとして、全国の体験者や家族の熱い要望に応え、「舞鶴引揚記念館」を昭和63年に開館した。以来、30年以上にわたり「引揚事業」と「シベリア抑留」の史実の継承並びに「平和の尊さ」を発信し続けてきたが、戦後75年が経過し、戦争を知らない世代が増加する中、記念館の来場者も平成21年には、ピーク時であった20万人の半分以下となった事を受け、本市では、市民、体験者、有識者等で舞鶴引揚記念館のあり方を検討し、地域のみならず、広く国内においても不可欠な施設として再生するため、「次世代への継承」を主たるテーマに地域や学校と連携し、「史実の発信事業」や「ふるさと学習」などを全国的に展開してきた。</p> <p>そのような中、平成27年度には舞鶴引揚記念館収蔵資料がユネスコ世界記憶遺産に登録され、市民と一体となって取り組んだ登録への活動も含めて、国内外からの注目も高まっていること、平成30年度には10月7日を「舞鶴引き揚げの日」とする条例を制定し、まちぐるみで後世に史実を継承する、平和に対する意識の高揚を図る取り組みを推進しており、時期を失することなく、市民、学校や事業者など地域社会と連携を図りながら更なる事業展開を行っていく必要がある。</p> <p>また、ICOM（国際博物館会議）京都大会2019や本市で開催されたプレ大会（舞鶴ミティング2018）において確認された“どうすれば博物館が社会に貢献できるか”、“平和で持続可能な未来構築のために博物館が果たすべき役割”については、令和元年7月に舞鶴市が内閣府の「SDGs未来都市」10自治体に選定され、「ITを活用した心が通う元気で豊かな田舎ぐらしが出来る“舞鶴”の実現」の取り組みの中で、引揚記念館が地域拠点として、ヒト、モノ、情報などあらゆる資源や地域社会とつながる施設となるよう事業を企画し、実施する必要がある。加えて、コロナ禍において、従来の人と人とのコミュニケーションを取りづらい状況の中で、SNSやHP等を活用したや動画発信やリモート手法を活用した博物館の情報発信、地域社会との連携交流を行う必要がある。</p>		
事業目的	<p>戦後・海外引揚開始75年が経過し、また、コロナ禍においても「引き揚げ」や「シベリア抑留」の史実の継承、平和の尊さの発信を強化するとともに、国内・外の博物館や大学・高校等の学校教育機関等、多様な関係機関や団体との連携を深め、下記の目標に沿って事業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① “世界の記憶”となった舞鶴引揚記念館収蔵資料を活用し「引き揚げ」や「シベリア抑留」の史実の継承、平和の尊さの発信事業を実施する。 ② 学校教育等との連携によるアウトリーチ活動を実施し、「次世代への継承」から「次世代による継承」の全国モデルの確立を目指し、中学生・高校生の「学生語り部」の活動の場、学びの場等の創出を強化するとともに学校独自の史実の継承活動の誘導に繋げる。また、市内の小・中・高校生を含む市民の郷土への愛着心と誇りを高めるため、ふるさと学習の実施、国内向けには舞鶴版SDGsと絡めた特色ある教育旅行としての誘致を強化して取り組む。 ③ 国内及び海外にある引揚港の歴史を持つまちと連携した歴史・地域文化の掘り起こし・地域の歴史の学びの機会の創出を行うとともに、次世代を担う学生同士の交流会を実施し、未来を担う人材育成に繋げる。 ④ 国内の大学教育関係者や引揚記念館に訪問された海外からの博物館等関係者や研究者との繋がりを好機として捉え、連携事業として「次世代ワークショップ」を開催し、多様な人々や社会との繋がりを創出するとともに平和の願いを世界へ発信する。 ⑤ コロナ禍においても、地域のグローバル化拠点として、国内外に博物館情報の発信を行うため、所蔵する引揚・シベリア抑留体験者の体験ムービー動画（英語字幕あり）やシベリア抑留体 		

験者の証言や手記等を基にして制作する「マンガ」を活用して、HP や SNS、YouTube 等により、小学生などの若い世代から多世代の多くの人に向け、また、海外に向けてわかりやすく伝える。

事業概要

1. 国際ブランド推進事業のための各種行事の開催

(1) 引揚関係都市（沖縄県中城村久場崎港）との連携による共同企画展開催事業

① 全国引揚港巡回展 in 沖縄（※1(2)、2(1)）と同時開催

引揚港としての役割を果たしたまちと連携した共同企画展を開催し、引き揚げやシベリア抑留の史実継承を図るとともに、地域の歴史について学ぶ機会等を創出する。

(2) 世界記憶遺産国際ブランドプロモーション事業（※1(1)①、2(1)）と同時開催

引揚関係都市における共同企画展、次世代ワークショップの開催に合わせ、開催地でプロモーションを実施する。

2. 学校教育等と連携したアウトリーチ活動による「次世代による継承」事業

(1) 次世代ワークショップ in 沖縄（※1(1)①、1(2)）と同時開催、リモート手法による実施も検討

全国引揚港巡回展 in 沖縄の開催に合わせて、琉球大学の大学生と舞鶴市で活動する中高生語り部による「国際平和」等をテーマとしたワークショップを開催し、2021年度新入会員向け研修会を中高生語り部が自ら考え、運営することにより、次世代による次世代への継承と人材育成に繋げる。

(2) 次世代継承イベント「引き揚げを知ろうスペシャルデー」

シベリア抑留や引き揚げの史実を通して、平和の尊さについて改めて考えるきっかけとするため、抑留地でもあり、多くの日本人が埋葬される墓地のあるウズベキスタン出身チェロ奏者による演奏とトークタイム等を通して引き揚げ事業を振り返ることを通して、世界平和の願いを希求、発信する。

(3) 学生語り部活動発信機会の創出（「地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム」等）

学校教育等と連携したアウトリーチ活動による次世代による継承事業として実施。

学生語り部の活動内容を発信機会（「地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム」での学生語り部活動報告）を創出することにより、今後の学生語り部活動への意欲向上、動機づけを図る。

(4) 次世代への引揚の史実の継承コンテンツ開発

次世代への継承活動を進めるにあたり、当事者である30代以下の若年層へのアプローチは、彼らの行動や思考様式を理解したうえで、実施することが必要であり、これらを踏まえた拡散力の高いコンテンツ開発を行ったうえで「オンライン会議」等を利用し、舞鶴引揚記念館に関心のある大学生を全国から募集し、上記で開発したコンテンツに関するプログラムを実施する。

(5) 京都精華大学連携事業・サブカルチャー（マンガ）を活用した次世代継承

引き揚げやシベリア抑留の史実、シベリア抑留体験者の証言や手記等を基にした「マンガ」を制作。制作過程において、京都精華大学学生と中高生語り部とのヒアリングを実施することにより、小学生など若い世代を中心とした多世代の多くの人に向けてわかりやすく伝えることができるものとする。

3. 海外情報発信・国際交流事業

(1) 引揚体験者アーカイブ動画（英語字幕作成含む）発信事業

所蔵する引揚・シベリア抑留体験者の証言・インタビュー動画の編集及び新規撮影を行い、HP、SNS、YouTubeで国内外に発信するとともにアーカイブ化を図る。

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1. 国際ブランド推進事業のための各種行事の開催 (1) 引揚関係都市（沖縄県中城村久場崎港）との連携による共同企画展開催事業 ① 全国引揚港巡回展 in 沖縄（※1(2)、2(1)と同時開催） (2) 世界記憶遺産国際ブランドプロモーション事業（※1(1)①、2(1)と同時開催） 2. 学校教育等と連携したアウトリーチ活動による「次世代による継承」事業 (1) 次世代ワークショップ in 沖縄（※1(1)①、1(2)と同時開催、一部リモート手法にて実施） (2) 次世代継承イベント「引き揚げを知ろうスペシャルデー」 (3) 学生語り部活動発信機会の創出（「地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム」等） (4) 次世代への引揚の史実の継承コンテンツ開発 (5) 京都精華大学連携事業・サブカルチャー（マンガ）を活用した次世代継承 3. 海外情報発信・国際交流事業 引揚体験者アーカイブ動画（英語字幕作成含む）発信事業</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>国際平和を願う発信拠点として、これまで旧引揚港のまちと連携した巡回展、国内外の博物館等と連携した合同企画展や連続講座、ICOM(国際博物館会議)、ホストタウン（ウズベキスタン）交流、英語版紙芝居の動画作成や引揚記念館の英語案内が이드の発掘・育成など、各種事業の実施により、国内外への情報発信を図れ、国際ブランドの構築につながる博物館の活性化事業に取り組み、徐々に成果が出てきている。</p> <p>今後もユネスコ世界記憶遺産登録資料を活用し、「引揚事業」と「シベリア抑留」の史実について、さらに国内外への発信の強化を図るとともに、引揚者を温かくお迎えした誇るべきまちの歴史を郷土愛の醸成に繋げていく。</p> <p>また、地域や学校等との協働による「次世代への継承から次世代による継承」の取り組みは、先進的な「舞鶴モデル」として国内外からの注目が高まっており、学生語り部をはじめ、若い世代の国内外における活躍の場をさらに創出することで、「引き揚げ」や「シベリア抑留」の史実の継承、平和の願いの発信に一層の事業効果が期待できる。さらに、引揚記念館を核として、各種関係団体や国内外の研究者、専門機関とのネットワークの構築を推進することで、国際平和を願う発信拠点として継続的な事業効果が期待できる。</p> <p>★目標指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生学生語り部数の増（前年度比5人以上） （結果） R2年度=24人 → R3年度=25人（+1人） ・教育旅行・平和学習等による新規・市外来館校数の増（前年度比5校以上） （結果） R2年度=29校 → R3年度=26校（-3校）

【事業実績】

【事業概要】

舞鶴引揚記念館所蔵資料のユネスコ世界遺産登録 5 周年に加え、戦後・海外引揚開始 75 年の大きな節目を迎え、平和で持続可能なよりよい未来を構築するため、世界記憶遺産登録資料を活用し、「シベリア抑留」と「引揚事業」に特化した日本に唯一の資料館として、史実を風化させることがないよう、学生や若い世代の「次世代による継承」に重点をおき事業を実施するとともに、国内の歴史を共有する旧引揚港関係都市、平和系資料館・歴史系博物館等関係者やホストタウンの取り組みの中で交流する海外関係施設等の関係者との連携・協力を図り、グローバルな歴史・文化拠点として、さらには、地域社会とつながる交流拠点を目指し、以下の各種事業を実施する。

1. 国際ブランド推進事業のための各種行事の開催

- (1) 引揚関係都市等との連携による共同企画展開催事業 (2) 世界記憶遺産国際ブランドプロモーション事業
○ 全国巡回展 in 沖縄、ブランドプロモーション in 沖縄

ユネスコ世界記憶遺産登録資料「舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」を活用して実施した沖縄県における引揚港（中城村）と連携した全国巡回展では、1000 人を超える多くの方が来場するとともに、開催地の新聞社や TV 局等のメディアによる告知などプロモーションの実施により、開催地及び周辺市の住民に忘れかけていた「引き揚げの歴史」や「平和への願い」を思い起こさせ来場者は、「シベリア抑留に沖縄県人もいたことを初めて知りました。」「貴重な写真がこんなに残っていてたくさんの証言も取り入れて展示されていて、移民の帰還当時の様子が伝わった。」と話するなど、次世代への継承の大切さを発信するとともに地域の歴史の掘り起こしに繋げることができた。

- ・ 期間：令和 4 年 3 月 12 日（土）～27 日（日）、9：00～17：00
- ・ 会場：中城村護佐丸歴史資料図書館 3F 企画展示室、来場者数：1,940 人



2. 学校教育等と連携したアウトリーチ活動による「次世代による継承」事業

- (1) 次世代ワークショップ in 沖縄（※1 (1)①、1 (2) と同時開催）

日本や海外から沖縄への帰還（引き揚げ）の港であった沖縄県久場崎港のある中城村での「全国巡回展」の開催に向け、沖縄県と舞鶴市をリモートで繋いで、両地の学生（琉球大学学生・舞鶴市学生語り部）が平和について意見交換を行った。（リモート交流実施日：7/29、8/13、12/18 計 3 回）

また全国巡回展期間中の 3 月 19 日から 21 日にかけて、学生語り部 8 名が現地沖縄県中城村を訪問し、琉球大学学生との交流や「ひめゆり平和祈念資料館」での平和学習、護佐丸歴史資料図書館での来館者に向けた語り部活動を実施した。



- (2) 次世代継承イベント「引き揚げを知らうスペシャルデー」

シベリア抑留や引き揚げの史実を通して、平和の尊さについて改めて考えるきっかけとするため、ウズベキスタン出身チェロ奏者アクマル・イルマートフ氏を招聘し演奏とトークタイム等を通して引き揚げ事業を振り返るスペシャルデーを開催した。

- ・ 実施日：令和 3 年 8 月 15 日（日） 場所：舞鶴引揚記念館
- ・ 参加者：824 人（当日の来館者数）



- (3) 学生語り部活動発信機会の創出（「地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム」等）

「引き揚げの史実を多くの人に伝えたい」と活動を続ける学生語り部の活動を報告することで、史実への関心を高めるとともに、同年代への認知を図り、将来的な学生語り部への参加者を確保する目的で実施。語り部を養成する講座受講者などに対し語り部活動の報告を行った。

- ・ 実施日：令和3年12月18日（土） 場所：舞鶴引揚記念館
- ・ 参加者：34人（学生語り部発表者：6人）

また、12月25日に京都学・歴史館で開催された「戦争の記憶を記録し、未来へ伝える」シンポジウムで舞鶴引揚記念館における学生語り部の活動を発表。

- ・ 実施日：令和3年12月25日（土） 場所：京都府立京都学・歴史館大ホール
- ・ 参加者：5人（学生語り部）



- (4) 次世代への引揚の史実の継承コンテンツ開発

「オンライン会議」等を利用し、舞鶴引揚記念館に関心のある大学生を全国から募集し、上記で開発したコンテンツに関するプログラムを実施



白大生×舞鶴引揚記念館Facebook発信プロジェクト 第1回セッション(2021/12/16)

- (5) 京都精華大学連携事業・サブカルチャー（マンガ）を活用した次世代継承

小学生など若い世代を中心とした多世代の多くの人にわかりやすく伝えるため、引き揚げやシベリア抑留の史実をシベリア抑留体験者の証言や手記等を参考とした教材ツールとしてのマンガを制作。

- ・ 引き揚げと舞鶴
- ・ 舞鶴のおもてなし

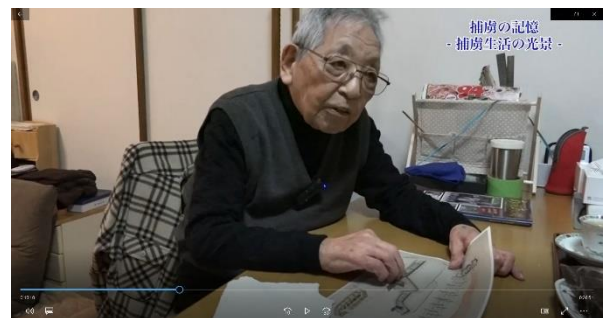


3. 海外情報発信事業

- (1) 引揚体験者アーカイブ動画発信事業

舞鶴引揚記念館が所蔵する引揚・シベリア抑留体験者の証言・インタビュー動画の編集及び新規撮影を行い、HPやSNS等で世界に発信するとともにアーカイブ化を図るもの。新規撮影動画については将来的なVR化も視野に入れた撮影方法とした。

- ① 体験者の撮影 5名
 - ・ 安田重晴氏(抑留体験者、舞鶴市在住)
 - ・ 平野力氏(抑留体験者、福知山市在住)
 - ・ 樟康氏(引揚体験者、舞鶴市在住)
 - ・ 吉田かず子氏(舞鶴での出迎え者、舞鶴市在住)
 - ・ 谷口久乃氏(舞鶴での出迎え者、舞鶴市在住)
- ② 所蔵動画の編集 3名
 - ・ 原田二郎氏 (抑留体験者)
 - ・ 新家苞氏 (抑留体験者)
 - ・ 木内信夫氏 (抑留体験者)



4. 成果・効果

上記の各種事業を実施し、舞鶴引揚記念館が収蔵する世界記憶遺産登録資料を活用し、「シベリア抑留」と「引揚事業」に特化した日本唯一の資料館として、恒久平和の願いの発信、次世代への史実の継承を図るため、国内外の子どもたちや学生などに働きかけ、事業参画を促進することできた。

また、国内外の学校教育等機関と連携した事業活動を積極的に行い、学生へのアプローチ、事業参画者数の増加を図り、関心度・認知度の向上に努め、「次世代への継承」から「次世代による継承」モデルの構築を進めることができた。

目標指標 ①中高生学生語り部（ホーター）数の増（前年度比5人以上）

（結果） R元年度＝17人 → R2年度＝24人（+7人）

②教育旅行・平和学習等による新規・市外来館校数の増（前年度比5校以上）

（結果） R元年度＝8校 → R2年度＝29校（+21校）